

分野名：青少年教育

青少年育成市民会議を中心とした横武の子ども関連事業

～ふれあい活動で子どももおとなもともに成長～

豊前市横武公民館【公立公民館】 館長 林川 英昭

1. 事業名

豊前市青少年育成市民会議横武支部活動事業

2. 事業の目的

横武の子どもたちを横武全体で見守り育てる。おとなとして子どもを導くだけではなく、たくさんふれあいながらともに成長し、よりよい町づくりの一助とする。

3. 事業の実施主体

○主体団体

豊前市青少年育成市民会議横武支部

支部長 宮崎 博

事務局 横武公民館

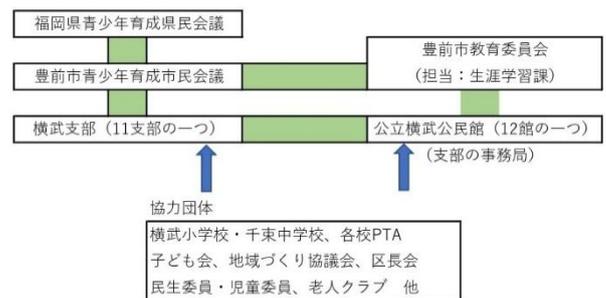
事務局長 横武公民館長

事務局員 10名

役員 6名

理事 22名（区長ほか）

豊前市青少年育成市民会議横武支部の位置づけ



4. 連携・協力機関・団体等

○教育委員会関係

豊前市教育委員会、豊前市立横武小学校、豊前市立千束中学校

豊前市青少年育成市民会議

○地域関係

横武地域づくり協議会、区長会、民生委員・児童委員ほか

5. 事業予算

令和7年度予算：346,000円（繰越見込みを含む）

6. 実施に至る経緯

昭和55年に豊前市青少年育成市民会議が発足した後、小学校区毎に支部が結成され、横武支部も昭和57年に発足した。県民会議の運動に準じて「おとなが変われば子どもも変わる」のスローガンのもと、親切運動やオアシス運動を展開、横武ではそれらの運動に加えて家庭や親子の絆を深めるという目標のもと、地域も子どもとのふれあい活動を大事にしてきた。

7. プログラム作成の視点

横武小学校区は、江戸時代末期に蔵春園という私塾ができるなど子弟教育が盛んであった。明治5年（1872）には現横武小学校の前身となる私立学校ができた。そうした雰囲気のもと、地域で子どもを育てていこうという土地柄があり、今に至っていると感じる。現在では青少年育成市民会議を中心に子どもたちを見守りながら、おとなも元気をもらう様子を報告できればと思う。

8. 事業の内容

（1）見守り活動・郊外指導活動

地方の過疎地であり、事件は比較的少ないが、日頃より子どもの様子を見守りながら、犯罪や交通事故の抑止に努めている。

① 朝の見守り活動

「無理をしない」が横武の方針。月2回の朝の登校時に交差点等に立ち見守りを行っている。また、福岡県の「みんなで防犯応援隊」に登録し、「ながら防犯」に努めている。

② 郊外指導活動

夏休み等を中心にイベント等がある時は、警察と協力して夜間見回り等を行う。

（2）ふれあい活動

一番重要な活動と位置づけ、様々な機会を通して子どもたちとふれあう活動を行うよう努めている。

① 餅つき大会（12月）

以前はしめ縄づくりを行っていたが、指導者不足や材料確保の問題から餅つき大会に変更した。子どもたちに杵つき餅の体験やおとなと一緒に餅をこねたり、その場で餅を食べたりしてふれあいを深めている。



② おやつ作り（2月）

学校の週5日制をきっかけに企画された事業。公民館を会場に講師を招き、子ども自らが考えて作業を進めることができるよう、おとなが助言しながら進めている。最近では豊前市岩屋公民館に出向き、そば打ち体験を行うこともある。

③ 夏休みこども広場

夏休みの子ども居場所づくり事業。当初は豊前市の地域支援事業として「横武地域ふれあい塾」という公民館事業として始めた。その事業が終了した後、青少年育成市民会議主催に切り替えて現在に至っている。公民館の空き時間を利用するため、現在は夏休み中の7～10回の開催。1時間の自主学習と企画教室の2本立てで午前中のみ。企画教室では、工作や室内スポーツ、料理、手芸などを行い、指導者はできるだけ地域のおとなにお願いしている。



④ 花の植え替え作業

横武小学校からの要請で始めた。小学校では、秋にプランターの花の植え替え作業をしているが、そこに青少年育成市民会議の役員等が手伝いに行く方式で行っている。

⑤ 年長者とのふれあい会（昔遊び体験、ニュースポーツ体験）

この活動も横武小学校からの要請で始めた。当初は、昔遊び体験の授業として1～2年生の活動に地域のおじいちゃんやおばあちゃんが参加して昔の遊びを一緒に行うというものである。授業の後、一緒に給食をいただき交流を深めていた。令和に入り、コロナの影響により給食を共にすることは中止となったが、ボッチャなどのニュースポーツで交流する活動を続けている。

⑥ その他の活動

その他には3学期の終わりのころ6年生に卒業記念品を贈呈したり、スポーツ協会の主催ではあるが、春に地域の人たちと一緒にグラウンドゴルフを楽しんだりしてふれあい活動を行っている。ふれあい活動以外では、豊前市の青少年育成事業への協力、教育講演会実施による学校教育や人権意識の向上、学校運営への協力も積極的に行っている。

9. 事業の成果

- 子どもの顔が見えること。横武小学校の子どもはわずか46名。これらの活動を通じて子どもたちの顔は、大概見覚えのある顔になる。子ども側としても、おとなへの信頼と安心感が得られるのではないかと思う。
- おとなが元気になること。子どもたちを見ていると、おとなが色々な場面で頑張らないといけないなと思うし、生活面も子どもの見本となるよう心掛けるようになる。
- ふれあい活動を通じて、お互いがよく知り合うことで子どもは安心の中で成長し、おとなも喜びの中で生き生きしてくる。おとなも子どもも、ともに成長することができる感じる。

10. 今後の課題

- 過疎化が急速に進む中で子どもと活動をともにするおとなが減っていること。
- 令和10年度末を以って横武小学校は閉校（市内小中学校の統廃合）となること。「おらが学校」が無くなることは、地元住民にとっては関りが減ること。
- 事業がマンネリ化していること。特に事務局長（林川）が長年同じ役職であることの課題を感じる。

問合せ先

〒828-0056 豊前市大字薬師寺 70-3

横武公民館（横武コミュニティーセンター）

TEL 0979-82-2669 FAX 0979-82-2669 E-mail : yokotake-kan@aroma.ocn.ne.jp